



園だより 11月号
令和3年11月 1日
新潟市立新津第三幼稚園

「感動を伝える、感動を受け止める」

園長 川合 千尋

先月の作品展では、子どもたちの思い思いの作品を見ていただきました。どの作品からも、子どもたちが感じたことが表現され伝わってきました。毎日の遊びの中で感じた驚きや喜び、遠足や運動会で体験した様々な出来事を表現した作品、自分が経験したことさらに想像を膨らませた作品など、見ていると、どの作品からも一人一人の制作過程が想像され、子どもたち一人一人の声が聞こえてきそうでした。

人は、何か美しいものを見たり、聞いたりすると誰かにその気持ちを伝えたいくなるようです。また、おいしいものを食べたり、すてきな体験をしたりした時もそうですね。つまり、感動するとそれを誰かに伝えたいくなるようです。小さな子どもたちを見ていると、そのことが特に強く感じられます。私が幼稚園に行くと、子どもたちは、必ず自分が作ったものを見せに来てくれます。そして、まだ、たどたどしい言葉で自分が作ったものを一生懸命にお話ししてくれます。そんな子どもたちの様子から、自分の思いを伝えたくて、伝えたくてという気持ちをひしひしと感じています。

私なども、きれいな山の景色を見た感動を伝えたいことがあるありますが、絵が描けるわけでもありませんし、写真も上手に撮れません。言葉にしても平凡な表現しかできません。感動を伝えるすべがあるとうれしいのですが……。それはさておき、子どもたちはきっと、日々様々なことに感動し、それを一生懸命に誰かに伝えようとしています。私たち大人は、それをしっかりと受け止めて、きちんと返してあげたいなあと感じました。少し大げさですが、そうすることで、身近なことに感動できる素晴らしい生き方につながっていくのかなと思いました。

これからいろいろな「初めて」経験をすることで子どもたちの未来には、きっと感動があふれていると思います。その都度、私たちもそれをしっかりと受け止め、一緒に感動できたらいいですね。

